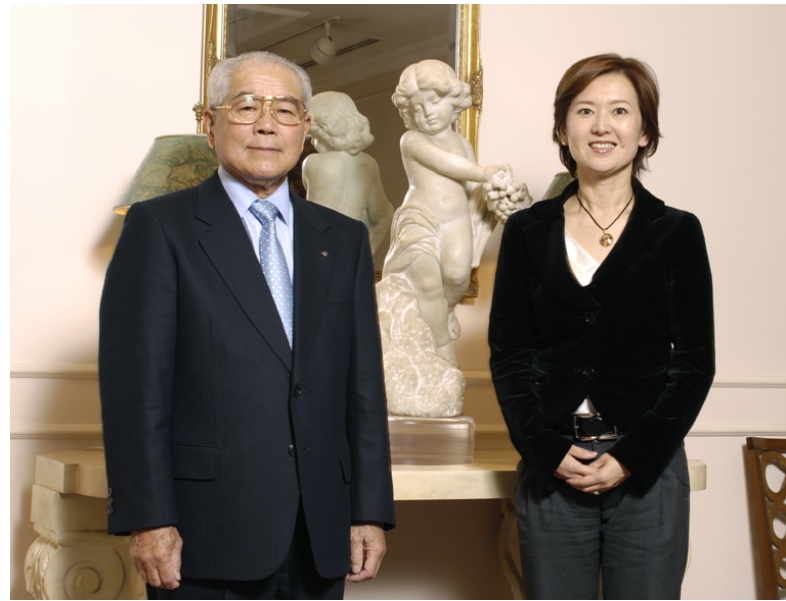


# 安全・安心な輸送サービス提供のために

トラック輸送業界では、軽油価格の高騰が続く中で、多くの事業者が危機的な状況に置かれている。各運送事業者は、省エネ運転や燃料管理を徹底するなど、あらゆるコスト削減に必死に取り組んでいる。だが、業界の自助努力だけでは限界もある。引き続き安全で安心な輸送サービスを維持していくためにも国を挙げた対策が急務だ。このような厳しい業界の現状について、全日本トラック協会の中西英一郎会長と関西大学政策創造学部の白石真澄教授に「下トラック輸送業界の課題と取り組み」をテーマに2回にわたって語ってもらった。(司会：毎日新聞社東京本社・川口裕之)



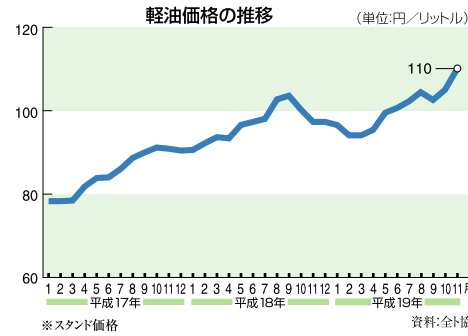
サンデー  
Excellence

## トラック輸送事業を 圧迫する軽油価格高騰

——軽油の高騰が続いていますね。

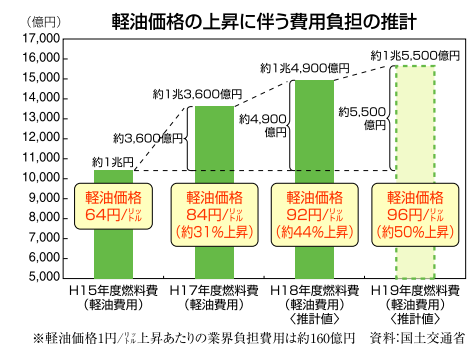
**中西** トラックが使う軽油の価格は、2004(平成15)年度は64円前後で推移していましたが、今では110円近くまで達している状況です。1円上がると、トラック輸送業界全体での費用負担は年間約160億円増え、値上がり前に比べると、年間7千億円以上の増加になっています。

**白石** マスコミ等を通じてトラック業界の窮状や動きを良く耳にしますが、今だに6割の事業者



が未転嫁という状況は、業界にとってはとても厳しいものだと感じます。何とか荷主さんに理解をいただいて、運賃の値上を行なえることが、安全確保や環境対策への対応を含めて、業界としての健全な事業経営につながるのではないかと感じています。

**中西** 第1次、第2次オイルショックの時には、完全に石油が不足しました。今度の場合には、どこへ行っても売っているというような状況です。ですから、お客様はなかなか納得していただけないということになります。飛行機や船などは、サーチャージ(運賃とは別建てで徴収される変動料金)制度で、それなりに



## 求められる 高速道路料金の引き下げ

——高速道路の料金の引き下げの動きもあるということですが。

**中西** 日本の高速道路は世界一、群を抜いて高いといわれています。そこで、道路特定財源を原資とした高速道路料金の引き下げに向け、昨年夏から全国で料金割引の社会実験が始まりました。さらに、昨年末に打ち出された政府の原油高騰特別対策のなかでも、高速道路料金の引き下げが決まっています。

また、来年度以降にも、道路特定財源を活用したさらなる引き下げも打ち出されています。**白石** 常時、高速道路を多頻度で利用しているトラック事業者さんにすれば、料金が少しずつでも下がっていくということは、大きな効果がありますよね。

**中西** ただ、首都高速・阪神高速の場合には、距離別料金制度を導入する動きがあります。短距離中心の利用者には恩恵もありますが、長距離利用が多い私たちトラック事業者にとっては、実質的な値上げとなってしまう

す。安全や環境面まで踏まえると、トラックにはできるだけ高速道路の利用を促すべきだと考えます。最終的には物流コストとして、お客様にも跳ね返ることになりますので、私たちとしても反対せざるを得ません。このような実情を広く理解していただくために、横浜、大阪、神戸では反対パレードも行いました。

**白石** 私も阪神高速の料金検討に関する委員会に入っていますが、高い料金の支払いを避け一般道に降りていくと、一般道の渋滞が発生しやすくなり、事故の確率も高くなります。長距離を走っても、割高にならないように、物流事業者さんへの負担軽減をという意見は、出ていますよ。

**中西** 民営化は採算をとるということかもしれませんが、安くするという概念が基本になければおかしいわけです。遠いところを高く、近いところは安くするというのを聞くと、分かったような気がします。ですが、業界としては整備の進んでいる高速道路ネットワークの利用促進に逆行してしまうという考えを持っています。

**白石** いくら経営努力をしても吸収しきれない

分があつて、物流コストが高くなる距離別料金になることによつて、1回あたりの物流の値段と、1回あたりの物流の値段と、それをどこが負担するのか。例えばスーパーなどで買う商品の値段が、少し上がってくるかもしれないですね。

——もう少し長距離利用に配慮したシステムを作つてほしいですね。

**中西** 何か、今のやり方はあまりにも短兵急のような感じがいたします。もっと物流の役割をご理解いただき、納得できるものにしていただきたいと思います。**白石** このことに関して2通りの考え方があると思います。例えば、たくさん使つていけば、道路の補修コストがかかるからたくさん払えという言い分と、たくさんご利用していただいているから、料金を下げてもっと利用してくださいという、アプローチがあります。私は後者のほうが、マーケットメカニズムにあつて

トラックは変わりつづけます。生活と環境を守るために。



社団法人 全日本トラック協会  
http://www.jta.or.jp



白石真澄

関西大学政策創造学部教授  
専門は少子高齢化と地域システム、バリアフリー。教育再生会議委員など公職多数。



中西英一郎

全日本トラック協会会長  
日本ロジテム株式会社社長